

日本性科学会 ニュース

第31巻 第4号

平成24年（2012年）12月

発行人：大川 玲子 印刷所：(株)絵文社

2013年研修会・学術集会・研究会の開催予告

1. 第7回 日本性科学会近畿地区研修会

近畿地区で毎年冬に開催している研修会が第7回を迎えます。

今回は、第12回アジア・オセアニア性科学学会と同時開催学会でご講演いただきました北垣秀俊先生に、ぜひもう一度お話をいただきたいという声が上がり企画をいたしました。

多くの皆様にご参加いただけますようお願いいたします。

【特別講演】

「神話とセクシュアリティ（仮題）」 島根県立大社高等学校佐田分校 北垣 秀俊先生

日 時：2013年2月17日（日）13:00～16:30予定

場 所：大阪市立大学医学部学舎6階

日本性科学会単位5単位

2. 第42回セックス・カウンセリング研修会

日 時：2013年5月26日（日）

場 所：東京慈恵会医科大学西新橋校（東京）

※昼休みに、2013年度日本性科学会総会を開催いたします。

3. 第33回日本性科学会学術集会「性科学から性哲学へ－性科学の守備範囲再考－」

日 時：2013年9月15日（日）9:00～16:30

場 所：（変更になりました）

横浜市社会福祉センターホール

〒231-8482 横浜市中区桜木町1-1 横浜市総合福祉センター4F（JR桜木町駅徒歩3分）

TEL：045-201-2060

大 会 長：早乙女 智子（神奈川県医師会神奈川県立汐見台病院産科副科長）

会長講演：「対比と相同、グラデーションとしての性」

4. 第15回性科学セミナー：日本性科学連合

日 時：2013年9月14日（土）

場 所：（変更になりました）

横浜市社会福祉センターホール

〒231-8482 横浜市中区桜木町1-1 横浜市総合福祉センター4F（JR桜木町駅徒歩3分）

TEL：045-201-2060

日本性科学会学術集会・性科学セミナー合同懇親会（場所未定）

フルート演奏とトーク 日本の子守唄に見る性 吉川久子

5. 症例研究会

日 時：2013年1月31日（木）18:30～20:30 3月27日（水）18:30～20:30

場 所：日本性科学会カウンセリング室

Vol. 31

日本性科学会

〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-3 森島ビル4F

No.
4

TEL・FAX 03-3868-3853

未完成婚カップルの性に対する認識

神奈川県医師会神奈川県立汐見台病院産科 早乙女 智子

2000年に「セックスセラピスト」の資格を学会で頂いて、2003年から「性の相談外来」を開設し、2006年からは現在の職場で「性の相談外来（レインボールーム）」にて、未完成婚、性交疼痛症、性同一性障害などの診療を行っている。結婚しても何年も性交ができないまま過ごしているカップルの割合がどのくらいいるかわからないが、妊娠を焦り始める頃に受診する傾向が強い。「結婚すれば何とかなると思っていた」「お互いそのことだけは避けるようになっていた」「子どもだけ作りたい」など、問題意識や知識のなさが目立つ。治療に通う中で妊娠に至った3例と、治療を中断した6例の概略を提示する。

1. 妊娠に至った3例

- ケース1) 妻30代後半、夫30代後半 結婚6年 挙児希望あり。診察にて抵抗なく指は入るが性交そのものができないとのこと。性嫌悪なし、膣痙攣なし。年齢的な制約もあり、相談の上、人工授精を開始し2回目で妊娠成立。分娩は吸引分娩であった。産後は、やはり性交がうまく行かず、二人目を希望して人工授精を4回施行したが妊娠に至らず治療を終了。
- ケース2) 妻30代前半、夫30代前半 結婚半年だが、指も入らず性交可能を希望して受診。処女膜強靭あり、性嫌悪なし、膣痙攣なし。12回の受診で徐々に内診に慣れ、自宅でもパートナーとトレーニングして性交可能になるも、人工授精を併用して3回目で妊娠成立。分娩は子宮筋腫合併で帝王切開となった。
- ケース3) 妻30代後半、夫30代後半 結婚5年、膣痙攣はごく軽度あり。夫の指は挿入可能とのことで、3回の通院で診察可能になる。不妊クリニック通院し妊娠するも流産、再度妊娠し経産分娩した。

2. 治療を中断した6例

- ケース1) 妻30代後半、夫30代前半、交際14年、結婚6年。妻に性被害体験あり、妊娠・出産に対する恐怖あり。性嫌悪と膣痙攣を認める。内診では示指1本が挿入可能。夫はオン・オフがはっきりしており、妻にとつては襲われる感じで耐えられないが、夫もどうしたらしいのかわからない。10回通院し、人工授精を2回試みるも脱落。
- ケース2) 妻30代前半、夫30代後半、結婚10年 性交が怖い、自分の指は入るが夫の指は入らないという。夫もどうせ入らないと諦めてしまう。受診1回で脱落。
- ケース3) 妻30代後半、夫40代前半結婚1年 診察では示指挿入可能だが、膣痙攣あり、性に対して前向きになれず、通院3回で脱落。
- ケース4) 妻40代前半、夫40代前半 結婚12年 示指挿入可能で、膣痙攣あり、オーガズムはありとのこと。1回の受診で脱落。
- ケース5) 妻30代後半、夫40代前半 結婚3年 夫の指は入るが、性交しようとする力が入ってしまう。2回の通院で脱落。
- ケース6) 妻30代後半、夫40代前半 結婚3年 示指挿入可能 妻の語りの中で、女の部分を親に否定された、という。4回の通院で脱落。

それぞれのケースごとに背景は異なるが、性の知識には何が必要なのだろうかと考える。性そのものが、語られることなく、むしろ隠すものとして人々の心にしみ込んでいるとき、外来のわずかな時間でできることは限られてしまう。性被害の記憶や、あからさまではない性を隠す言説が親から刷り込まれているとき、それを覆すのが難しい。特に、本人のニーズの中に、性交や妊娠などへの期待が薄い場合、多くは女性側の問題としてしまい込まれてしまう。日々のトレーニングも妻の義務のように見えてしまうのだろうか。主体的に性を楽しむには程遠い人たちを見るに付け、性教育を行う意味を、教える側はわかっているのだろうかと暗澹たる気持ちになる。それでも性の知識や体の仕組みなどを少しずつ伝達し、どこかで気づいてもらうのを待つしかないのだろうか。

また昨今は、妊娠先行型結婚が増加し、個人の人権の尊重が進むと、イエ制度の存在意義が薄れているが、結婚の意味をどこにおいてお互いが協力関係になれるかどうかが、その後の経過を左右する。結婚に求めるものの曖昧さがお互いの立場を追い込んだり、逆に置き去りにするようなケースもみられ、改めて結婚に求めるものはそれぞれのカップルで異なっていることがわかる。

性に関して妊娠だけを目標にするのはもったいない気がするが、挙児希望が強いと治療が進みやすいのは確かである。その際には、妊娠中や産後の体と心の変化を伝えるようにしている。妊娠すると、夫婦関係や心理的距離がさらに遠くなる可能性についても言及して、性交、妊娠・出産、子育ては一連の作業の流れの中で起こることであり、どれも独立しているというよりは、前の事象があとへも影響すると考えることができる。まだまだ、脱落例が多く、診療の工夫が必要であると思われるが、状況を認識し、それが彼らのスタンスであることを受け入れるお手伝いも決して無駄ではないと思いたい。

第3回世界性の健康デー 東京大会に参加して

成田記念病院泌尿器科 奥 村 敬 子

H24年9月9日世界性の健康デー 東京イベントに参加させていただきました。

ある日突然、早乙女智子先生から討論の出演を依頼されたのです。性機能の分野ではヒヨコの私。「素人でも大丈夫」「全力でサポートします」という言葉に後押しされ、パネル討論の演者という初めてのお仕事をいただきました。

会場は、セレブ感漂う四谷の持田製薬株式会社ビル。イベントの表テーマは「感性と性感の幸せな関係」、裏テーマは「大人の文化祭」。会場入ると、おそろいのオレンジのTシャツのスタッフに明るく出迎えられました。入口脇には白衣を着て写真が撮れるお医者さんごっこの部屋があり、手書きの矢印表示に「文化祭」と感じつつ、イベントホールに入りました。

会場は、朝から立ち見が出るのではないかと言うくらい盛況。午前は、HIV/AIDs啓発のプレイス東京の池上さん、子宮頸がん啓発の女子大生リボンムーブメントの新井さん、低用量ピル啓発のLOCの大岩さん、身体障害者の性ノアールの熊篠さん、住民とともに活動する保健師の会の荒木さん、司会渡會さんというメンバーでの「性のヘルスプロモーション～何が啓蒙活動のハードルとなっているか？～」というトークイベント。

会場からも積極的な発言あり、熱気むんむんでした。午前の部で特に印象的であったのは、子供に対する性教育の話。特に「男の子に対する性教育」！元々、正しい性教育を小学生から行うべきだと思っていたが、「男の子に対する性教育」は考えたことがなかったのです。小学生時、「男子は校庭で自主学習」と言われ、女子だけカーテンの引かれた教室に集められ、教師から生理や子供を産むことについて表面的に教育された世代。男子は何にも教育されず、お猿さんのように校庭を走り回っておりました。そんなお猿さんの延長に、「コンドームの必要性を彼女がいきなり話しても理解を得るのは難しい」という意見に納得でした。

「男の子に対する性教育」、是非、小学生の頃から始めるべきでしょう。

午後1番は「感性と性感の幸せな関係～医師とセックスワーカーのフリップトーク～」というトークテーマ。司会の密山要用さん(家庭医)、性戯の味方(セックスワーカー)の水嶋かおりんさん、そして泌尿器科医の私の登場です。

ライブ感を損ないたくない、という意図で事前の打ち合わせは最低限にとどめた私達。開始前「午後のセッションも午前のように盛り上がるかしら…」と若干不安になりました。しかし、そんな不安は杞憂で、かおりんさんの自己紹介でのレイプ体験の話に引き込まれ、病院での保険診療による包茎手術は3万円ちょっとで出来ること、肛門から腕を肘まで入れることで快感を覚えるお客様の話など、非常に楽しく、ほんわかムードで語り合いました。そして、男の子に正しい自慰行為のやり方を教えないために、床にこすり付けないと射精できなくなり、いざ結婚し子供を作りたいと思っても膣内射精障害になってしまう男性がいる現実についても会場に伝えることが出来ました。

会場から、東邦大学の永尾教授からペロニー病についてご質問があった時には、かなり恐縮しました。(なぜヒヨコの私が壇上?!という思い)

午後の最後のセッションは、司会の小林さん、TENGAの松浦隆さん、バイブレーター収集家のOL桃子さん、ローション博士さんによる「グッズから考える性の健康～ラブグッズから性の健康を考えるトークセッション～」。「雑誌an.anで見たことある人達だ！」とミーハー心をくすぐられつつ、会場に参加しました。

実際触ってみましょう！とそれぞれのグッズが手元に。卵型のTENGAが、20cmくらい伸びることにビックリしたり、いろんな動きをするバイブルーターを動かしてみたり、ローションを実際に舐めてみたり…。真ん中の席からローションを舐め「スイカ(味)！」と大きく叫ぶ男性の声も。TENGAとローションのお土産じゃんけん大会もあり、ちゃっかりお土産もいただきました。五感フル活動の、まさに文化祭でした。

残念だったのは、大会場でずっと参加していたため、企画展フロアに参加出来なかったこと。「おしゃべりカフェwith上村ドクター」にも参加したかった。

今回の性と健康イベントの参加者は178人、18歳から70代まで幅広く参加いただけたそうです。

最後に、素晴らしい体験のチャンスをくださった実行委員長の早乙女智子先生、事務局長の柳田正芳さんをはじめ影でみんなをまとめ取り仕切ってくださったスタッフ皆さんに感謝申し上げます。

明るく楽しく、性と健康について真面目に語るイベント。きっと来年も素晴らしい企画があるのではないか？これを読み、来年は参加してみようかな？とウキウキわくわく思っていただけました幸いです。

第11回 医療者向け がん患者さんの性を支援するための研修会に参加して

社会医療法人 社団 カレスサッポロ 時計台記念病院 吉田 奈美江

性科学会でご活躍されている先生方が研修実行委員を務める「がんと性研究会」が医療従事者向けに「がん患者さんの性を支援するための研修会」を年に1回開催している。第11回となる本年は、11月18日に大阪で開催され、初めての東京以外での開催となった。

総論では大川玲子先生から「女性の性反応と性機能障害について」、高橋都先生からは「がんが性に与える影響」についてご講義いただき、男性だけが対象ではないセクシュアリティのさまざまな問題と生活の質の向上のひとつの手段として積極的に取り組む重要性について受講者それぞれが考える機会となった。

疾患別の各論では、高橋都先生からは乳がんについて、森村美奈先生からは婦人科がんについて、渡邊知映先生からはがん薬物療法についてご講義いただき、それぞれの疾患の治療による性機能障害やボディイメージの変容、化学療法や内分泌療法による妊娠性などの問題、高度生殖医療についてなど、幅広い最新の知見を得ることができた。

午後からは、基本的セックスカウンセリング技法について金子和子先生より講義を頂いた後、8グループに分かれてファシリテーターの先生方のアドバイスのもと事例を用いて実際の相談場面さながらのロールプレイを実施した。私自身この研修会は4回目となるリピーターであるが、特にロールプレイの場面では毎回ハッさせられことが多いと感じている。閉会の挨拶で高橋都先生からもコメントがあったが、年々ロールプレイの質が上がっていると私自身も感じることができた。外来などの短い時間でどのように相談者を理解し、問題を明らかにし、さらに相談者を含めたパートナーへアプローチを行うかについて毎回グループ内で活発な意見交換が行われる。このような変化は、臨床で実際に問題を抱えている患者・家族に遭遇し、それぞれの職種がニーズに応えようとしている姿勢の表れではないかと感じた。また、初めて関西で開催されたこともあり、ロールプレイでは東京開催ではなかった関西らしい良い笑いのある素敵な雰囲気も味わうことができた。

今回は北海道から沖縄まで全国各地から60名近い医療者が受講しており、今後全国各地でがん患者さんの性の支援の輪が広がり、研修会が開催されることを期待させるものであった。

資格認定委員会より

日本性科学会副理事長（認定制度担当） 阿部 輝夫

日本性科学会「セックス・カウンセラー」「セックス・セラピスト」資格認定規定、並びに更新規定（日本性科学会雑誌に掲載）に基づき、2012年度の新規資格認定並びに更新資格認定を行いました。厳正なる審査の結果、以下のように新規セックス・セラピスト1名、更新セックス・セラピスト3名が認定されました。

新規認定

セックス・セラピスト 小堀 善友

更新認定

セックス・セラピスト 茅島江子 大谷眞千子 森村美奈

来年度も新規認定、並びに更新認定（2008年資格取得者が該当）の手続きが行なわれます。申請を希望される方は、日本性科学会雑誌2012 vol.30 no.1掲載の資格認定規定並びに資格更新規定を御熟読の上、ご準備をお願い致します。特に、学術集会・研修会などに御出席の受講証・出席証は、必ず御保管下さい。

申請の詳細は、2013年6月発行のニュースに掲載されます。